

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                          |   |          |
|----------------|--------------------------|---|----------|
| ○事業所名          | Yくまーず未来 三河安城             |   |          |
| ○保護者評価実施期間     | 2025年10月9日 ～ 2025年10月23日 |   |          |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                   |   | (回答者数)   |
| ○従業員評価実施期間     | 2025年10月9日 ～ 2025年10月23日 |   |          |
| ○従業員評価有効回答数    | (対象者数)                   | 7 | (回答者数) 7 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年 11月 6日             |   |          |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※)だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること                                               | 工夫していることや意識に行っている取組等                                                                                                                                | さらに充実を図るための取組等                                            |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 1 | 子どもの課題に合わせ、実生活で使える力を意識した多種多様なプログラムを企画し、また、子どもたちが能動的に参加できるよう子どもたちの特性や興味・関心に合わせて楽しく実施している。 | その時々の子どもの課題を把握し、伸ばしたい力に合わせた活動を企画している。例えば、4年生グループではお友達同士で遊びに行くことをイメージして計画を立てて実際にお出かけをする、SSTで挨拶、話を聞くといった基本的なことから約束の仕方といった他者とのコミュニケーションの具体的な方法を確認するなど。 | 今後も、年齢・学年が上がり、変化していく子どもたちの課題を把握し、ニーズに合わせた活動・プログラムを提供していく。 |
| 2 | 活動以外の子どもとの関わりでも、特性に合わせて子どもの良い部分を認め、情緒的なコミュニケーションを大事に関わることで、子どもたちとスタッフが良い関係を築いている。        | 子どもの気持ちに寄り添い、また、特性の理解をして対応することを基本に、積極的に雑談をしたり、一緒に遊ぶことで楽しさや楽しさを共有することを大切にしている。<br>ABA（応用行動分析）や感覚統合の視点を基本とし、スタッフ全体で研修を行なっている。                         | 引き続き、スタッフみんなで事業所全体が明るく穏やかで、子どもたちが安心できる環境を作っていきたい。         |
| 3 | 専門職（作業療法士・保育士・教員など）を中心に子どもを専門的な視点で理解し、必要な支援を行うことができる。                                    | 個々が専門的に学びを続ける他、定期的に事業所内で研修を行い、また日々子どもの様子についてスタッフ間で話し合いを行って、スタッフ全員の子どもの理解を深め、対応するスキルを磨いている。                                                          | 個々のスタッフが支援に対する責任をもち、積極的に研修への参加など自己研鑽に励むことを事業所として応援したい。    |
| 4 | 日々の事業所の様子を丁寧にお伝えし、また、丁寧なモニタリングを行うことで保護者との連携を図っている。                                       | 支援記録を通して事業所での子どもの様子を丁寧にお伝えしており、保護者様からもコメントなどを通してご家庭の様子を伺うことができている。                                                                                  | 支援記録で丁寧に伝えることに加えて、送迎時など保護者様に直接お話しできる機会をより活用して、連携を深めていきたい。 |

|   | 事業所の弱み(※)だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等                                                                                                             | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                                                                       |
|---|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 中学校、その先の進路への支援の経験が少ない。                     | 学齢期以降の支援の経験をもつ職員がおらず、保護者の方とともに学んだり調べて考えていく形になっている。                                                                            | 他事業所や相談支援事業所などとの繋がりの中で必要な情報を得てできる支援を増やしていく他、次のステップとして繋げていく先の情報を集める必要がある。                                   |
| 2 | 小学校や他関係機関との連携をより増やしていきたい。                  | 子どもたちが長く生活している家庭や小学校での様子をより具体的に知ることがより良い支援につながると考えるが、小学校の先生や保護者の方が多忙であること、また事業所と学校で対応できる時間の違いがあることなどを理由に密にやりとりをすることが困難な現状がある。 | 互いに負担の少ない形でコミュニケーションを取れるシステムなどを検討していく。また、小学校の先生とのやりとりは間に保護者の方に入ってもらったり、複数の事業所や子どもの話をまとめるなど効率的な連携の方法の検討が必要。 |
| 3 | 保護者向けの情報発信を増やしていきたい                        | 子どもへの直接支援をはじめとする他の業務に追われており、マンパワーが足りていない。                                                                                     | 今年度は保護者の集まりを開催することができた。保護者の方の協力も得ながら継続して開催していきたい。また通信での情報発信もしていきたい。                                        |